

Q2 「検証・杉原千畝」のあり方について

「世界の記憶」認定後、町の発展と町民生活への影響は

問 恐らく「世界の記憶」認定となることは間違いないと私自身も思っているが、一方で認定以後さらなる顕彰活動を発展させ、将来に対する方針などについて所信を伺う。

また、八百津町の発展、町民の生活にどういう影響や効果を及ぼすことができるかと考えているのか、町執行部の考えを伺う。

答 (山内タウンプロモーション室長)

「杉原リスト」ユネスコ世界の記憶への登録後、さらなる顕彰活動を発展させ、将来に対する方針等についてのご質問ですが、1992年に人道の丘公園を開園して以来、2000年に千畝氏の生誕100周年を記念して杉原千畝記念館を開館するなど、杉原千畝氏の勇氣ある行動を顕彰するとともに、その人道精神をいつまでも後世に伝え、平和と命・思いやりの心の大切さを発信してきました。

特に、杉原千畝記念館は杉原千畝氏の功績をたたえることだけにとどまらず、「今、自分は何を感じるか」「今、自分は何ができるのか」、また「どんな決断ができるのか」

を学ぶ場として活用し、平和の尊さを考えていただいています。

世界が平和であるためには、今以上に人類一人ひとりがより平和に対する思いを強くすることが大切であり、私たちも愛・心・勇氣をもって行動すれば、将来においてきつと心の痛みのわかる人間形成につながります。

ここで、杉原千畝記念館来場者の感想を紹介させていただきます。

「何度来ても感動します。三度目ですが感動しました」、「岐阜県民の誇りです。日本人の誇りです」、「努力と勇氣に元気づけられました」、「永遠に語り継ぐべきです」、「ここに來られてとても良かったです」、「私の故郷は敦賀市です。この年まで、敦賀港が千畝さんの発行したビザの重要な役目を持っていたことを教育の場で教えられていません。民主日本の教育では戦中、戦後の良いことも悪いこともしっかり教えて欲しい」、「戦争のない世界のため、自分は何ができるかを考えさせられました。平和を望む」、「博愛精神が素晴らしい、涙なくしては拝見できませんでした」、「戦争はいや」、「子どもと共に来館、二人して感動しました」、「とても悲しくなった。正義感あふれる行動が世界を救ったと思った。同じ岐阜県民としても杉原さんを誇りに思います」、「人間の

普遍性の意味を再確認できるよい記念館でした。日本人の誇れる人が岐阜の出身であることが誇りです」、「彼の行動をどう生かして引き継いでいくのか大人の課題です」など、日本国内外の方々が記念館を訪れた感想です。

また、一昨年行った「杉原千畝」の映画試写会の感想では、「杉原さんの勇氣には本当に感心しました。八百津町民であることに嬉しく思います」、「私の娘は千畝さんの「千」の字を活用しております。大人になる生きる活力を共に考える時間になりました」、「人として国境を越えても心はひとつ。千畝さんはそれを教えてくれました。次世代にもつながる命で、大切にして行きたいです」、「子どもにも見せたいです。自分のできることを頑張りたいと思います。今の自分の地位を捨てて人を助けられるか、そんな人間になりたいです」、「八百津の人々にとって、いや日本人として誇り高い気持ちにさせられる」、「日本人の平和の誇りを抱いて欲しいと思う」、「感動しました。八百津町民で良かったです」、「生きるということを考えさせられました」、「八百津町民として誇りに思いました」、「戦争は絶対してはいけないと強く思いました。平和な世界を」、「平和でありたいとつくづく思い

ました」、「自分に何ができるか考えたい」、「戦争のむごさとして心は世界共通。人種に關係ないことも感じました」など、映画試写会での感想です。

このように杉原千畝氏を通じて、平和や命の大切さを考え、思いやりの心を広めていく場として杉原千畝記念館が担う役割は重要であり、過去へさかのぼるのではなく、未来へつながる記念館を目指しています。

さらに2018年度の小学校での道徳教科化に伴い、初めて作られる教科書に、杉原千畝氏の決断が「考え、議論する道徳」の教材として取り扱われる教科書会社があるという新聞報道もありました。

以上のことから、杉原千畝氏の生き方を後世に、その功績を世界に発信していくことが町の使命であると考えています。

調査研究拠点つくりと検証作業を

問 現在、八百津町議会は御換を行っている。トンネルが取り持つ縁、そして新丸山ダムが取り持つ縁ということで実施しているが、杉原千畝氏が取り持つ縁というものもある。先ほどの一般質問の際、杉原千畝氏の手紙について触れたが、議長の手紙が得られたら、ここで一部抜粋して朗読したいがいかがですか。

現在、八百津町議会は御換を行っている。トンネルが取り持つ縁、そして新丸山ダムが取り持つ縁ということで実施しているが、杉原千畝氏が取り持つ縁というものもある。先ほどの一般質問の際、杉原千畝氏の手紙について触れたが、議長の手紙が得られたら、ここで一部抜粋して朗読したいがいかがですか。

(林議長：八百津町にゆかりのある部分の朗読を許可)

この手紙は、杉原千畝氏のすぐ下の弟、乙羽氏へ書かれた手紙である。弟の健康を案じ、そして故郷を懐かしんでいる内容となっている。

(加藤議員：町にゆかりのある部分を朗読)

実際に翌年、日本に帰国された折には、親戚一同をこの八百津の地に招待し、蘇水峡に近い料理旅館「いこい」で帰国の挨拶をされたと聞いている。その際、夜には千畝夫婦は「いこい」に宿泊され、翌日には八百津町の思い出の地を訪ねられたということがある。

以上の内容も含め、その他にも杉原千畝氏自身の書かれた手紙が存在していると聞いている。町執行部はこういった情報を知っていたのか、あるいは情報を取捨選択したのではないかと、いうような疑問を対外的に持たれては困るので、ここからは提案だが、一般の世界の記憶認定を契機に、顕彰活動の第三幕として、県と一緒に、あるいは近隣の御高町とも一緒に新しい扉を開いてはどうか。具体的には、県より学芸員を派遣していただき、杉原千畝氏の調査研究はもとより、改めて杉原千畝記念館に広く研究者が集える研究会のようなものを発足してはどうか。それとともに、全国あるいは